



発行
日本共産党
春日部市委員会
春日部市粕壁
東6丁目7-12
電話 748-5159
FAX 748-5179

「市民の負担軽減も必要と認識」と答弁

令和7年度国民健康保険予算質疑

2月26日、議案第39号「令和7年度春日部市国民健康保険特別会計予算」について、今尾やすのり議員が市議団を代表して質疑しました。

2月26日、議案第39号「令和7年度春日部市国民健康保険特別会計予算」について、今尾やすのり議員が市議団を代表して質疑しました。

加入者減・給付増・低所得が構造的な問題

昨年12月議会での「国保条例の一部改正」の可決を受け、令和7年度国保税は大幅な値上げとなります。

保険税額は、令和6年度42億4206万円から令和7年度47億2619万円、4億8412万円の増加、一人あたりで換算すると、9万586

所得階層別の加入者見込数

所得	世帯数	割合
43万円未満	14,181	47.4%
43万～100万未満	3,987	13.3%
100万～200万未満	5,858	19.6%
200万～300万未満	3,007	10.1%
300万～400万未満	1,276	4.3%
400万～500万未満	608	2.0%
500万円以上	978	3.3%

所得階層別の加入者数と割合は左表の通り。所得300万円未満で90.4%と低所得

者が大半を占めています。

加入者数は、令和2年度と比較すると5万3705人から4万2151人見込で、1万1554人減少、5年間で22%減少しています。

一方、医療給付額は、令和2年の29万8744円から7年度見込みで34万4430円と11.5%の上昇をしています。

加入者の減少と、医療費の高騰、加えて低所得者が多い状況が保険税額の高騰を生み出している「国保の構造的な問題」として、認識されています。

国・県が赤字解消・準統一を求める

特定健康診査の受診率は、46%超と令和2年～4年まで、受診率県内1位を続けています。

今尾議員は「これに人間ドック

補助を加えれば、市民の健康増進が進み、医療給付費の抑制につながるのではないかと県内40市中36市が行なっている補助の再開を求めました。

健康保険部長は「本市の特定健康診査はがん検診と組み合わせることで人間ドックとほぼ同様の検査になっている」として、行なわない考えを示しました。

今尾議員は「大幅引上げとなり、国民生活は困窮を極めている。国保税を抑える検討はしないのか」の質疑に対し、健康保険部長は「保険税との収支均衡を図るための補填をしている。国は法定外繰り入れを赤字と定義し、県は準統一で同じ保険税とし、赤字の解消を求めている。市民の負担軽減も必要と認識はしているが、適切な保険税を公平性の観点からも、一定の負担をお願いせざるを得ない」と答えました。



原発ノー命かがやけ市民のつどい DVD上映とスタンディング

3月15日、春日部革新懇が「原発ノー命かがやけ市民のつどいIN春日部」と題し、市民活動センター(ぼぼら)でのDVD上映会と春日部西口での駅頭宣伝をおこないました。



東日本大震災と福島原発事故から14年。ぼぼらでは「原発の町を追われてー避難・双葉町の記録」というDVDが上映されました。福島原発のおひざ元であり、3・11直後に全世帯が避難勧告を受けた双葉町は、埼玉県加須市の廃校となった旧騎西高校に1400人の町民とともに役場機能を移し、避難生活を送りました。このDVDは、避難直後からの1年間を記録した第1部「原発の町を追われてー、避難生活2年目の町民の我慢が限界を超え、不満が巻き起こり、分断に追い込まれていく第2部「2年目の双葉町」、ふるさとを追われ、避難から6年目、

埼玉県久喜市で田んぼと畑を譲り受け、新たな人生を踏み出そうとする一人の牛飼いの鶴沼久江さんの姿を追った第3部「ある牛飼いの記録」の3部作が上映されました。

福島を忘れない 写真パネル展

鶴沼さんが映像の中で「双葉においてきた牛が野生化するから殺処分を許可してほしいと言われた時、『そんなことできない。どうしても殺すというなら私を先に殺してくれ』と言ったら『お金もらって生活してる身なんだからあきらめなさい』と言われた。好きでこんな生活をしているわけではないのに、悔しくて惨めだった」と淡々と語る姿がとても印象的でした。ぼぼらの4階ロビーでは

「福島を忘れない」と題して3月11日から3月30日まで被災した福島の写真展がおこなわれています。

再生可能エネルギー に抜本的転換を

夕方4時から春日部西口に移動し、雨の中ではありませんでしたが「原発再稼働反対!」「すべての原発を廃炉に」「再生可能エネルギーに抜本的な転換を」と訴え、宣伝行動をおこないました。

2月に閣議決定された第7次エネルギー基本計画は、再生可能エネルギーが4割5割程度、火力が3割程度、原子力が2割程度と引き続き原発に依存し「脱炭素」に逆行する火力発電に依存するものです。コストが低く、自給率が高くて安全な「再生可能エネルギーへの転換を」と訴えましょう。

休日の当番医

市立医療センター TEL735-1261(夜間毎日、土・日・祝日)内・外科系 小児救急電話相談 #7119
 3/23(日)大川医院(内科系)備後西3-1-5TEL734-3121 あゆみクリニック(小児科系)
 大枝400-4TEL731-3283 さだまつ眼科クリニック(外科系)谷原新田2213-1TEL731-5040
 3/30(日)はまさきの郷クリニック(内科系)一ノ割3-16-9TEL731-7777 浜崎医院(小児科系)
 備後西3-8-57TEL745-6000 杉浦眼科豊春分院(外科系)上蛭田259-2TEL754-2333